

平成 3 0 年度 第 2 回 学校運営協議会記録

		学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	平成 3 0 年 7 月 1 9 日 (木) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 6 時 3 0 分		
協議内容 委員発言内容 等	<p><会長あいさつ></p> <p>F 委員：2 2 日には日本海メロンマラソンに合わせて、若美地区一斉清掃が予定されている。道路をきれいしに、選手に気持ちよく走ってもらうように、地域も活動している。</p> <p>夏休みになるが、子どもたちが楽しい夏休みを過ごすことができるように、地域としても支援していきたい。</p> <p>今日は積極的に意見を出していただき、風通しのいい学校運営になるようお願いしたい。</p> <p><夏休みまでの教育活動を振り返って></p> <p>校 長：学校運営協議委員の皆様のおかげで、順調に教育活動を進めることができている。今年度は「いのちの教育あったかエリア事業」に取り組んでいる。予算もついているので今までの行事等の活動をより充実したものにしてきている。また、授業では、道徳を校内の研究教科にして取り組んできている。特に、今年度から教科になり、授業で評価が必要になってきた。評価については、他教科と違って、個人内評価になっているので、個々の心を 1 年間かけてじっくり育て、文章の記述で評価していきたいと考えている。</p> <p>今年度も地域を活かした行事を計画している。すでに、五里合地区では、男鹿梨について梨農園と J A さんの協力で 3 年生が体験活動をさせていただいている。これは、旧五里合小学校から続くものである。また、野石地区の宮沢海岸クリーンアップは全校で取り組み、市や海の家組合からも協力してもらっている。これは旧野石小学校から続く行事であるので、地域を学習の場として受け継いでいる。</p> <p>また、学校前のお寺さんで、先日 P T A 親子学習会ということで 4 年生が座禅の体験をさせてもらっている。</p> <p>たくさん行事で地域に出向き、地域の人と接しながら教育活動を進めることができている。</p> <p>A 委員：資料には写真がついていて、とても分かりやすい説明がついていてよかった。</p> <p>校 長：学校の H P にも同じ資料がある。そちらはカラー写真版になっているので、もっと見やすくなっている。</p> <p>D 委員：道徳の授業で成績を付けることになるようだが、どんな成績を付けるかは難しいと思う。かつては道徳教育はあったが、先生が一方的に話し、それを聞く授業だった。</p> <p><学校支援ボランティア名簿について></p> <p>校 長：現在、学習・安全・環境に分けたボランティアには 2 1 名のお名前が載っている。しかし、学校ではうまく活用できていない現状にある。機会を見てお願いしようと思っているが、</p>		

協議内容
委員発言内容
等

なかなかよいタイミングが見つからない。また、この名簿に載っていない方でも学校に協力していただいている方もたくさんいる。農園の草取りなどは、土日に教職員が気付かないうちにそっとやってくさっているか方もいて非常に感謝している。気付かないで感謝できないこともあり申し訳ないが、いつでも積極的に関わっていただければありがたい。

また、昨年度、地域の県無形文化財である福米沢送り盆の授業ができなかった。地域で教えていただけそうな方をご紹介いただいたし、3・4年生も外国語活動が始まるということで、地域で外国語ができそうな方も紹介していただいていた。

F委員：福米沢の送り盆は町内会長さん、外国語活動は公民館職員にお願いすればやってくれると思う。

<「道徳の授業」ゲストティーチャーについて>

校長：「いのちの教育あったかエリア事業」の一貫として、今年度は道徳の授業に地域の方に入っていただいて授業を行いたいと考えている。前回の学校運営協議会で委員の皆様からのご推薦をお願いしていたが、どなたかいらっしゃいましたでしょうか。できれば、この委員の中から授業に参加できる方がいれば大変ありがたい。夏休み明けから冬休み前あたりまで、各学年1回実施する予定なので、考えておいてほしい。

C委員：私のところに、地域支援コーディネーターから電話がきていた。

教頭：地域支援コーディネーターに道徳の授業に協力できそうな方を探してもらっていた。それで、5名くらい推薦していただいている。C委員もその一人に入っている。

E委員：私のところにも電話がきていた。

校長：授業の導入や終末のお話、子どもたちとのやり取りなど、簡単に授業に入れるように考えるので、是非協力してほしい。

<小中合同講演会「命の授業」について>

校長：「いのちの教育あったかエリア事業」の目玉として、小・中合同で講演会を予定している。小学生が鴻西中に行って講演を聞くことにしている。保護者や地域の方と一緒に進めるこの事業であるので、主旨を理解していただいて、参加者をできるだけ多くしたい。8月1日発行の男鹿市の広報にパンフレットを入れて全戸に呼びかけはするが、委員の皆様にもご都合がつけば是非参加していただいて、この事業を地域のものにしてほしい。

予算があるので、東京から講師を招いている。各地で講演なされている方なので、とても感動的な話が聞けると思う。

<いのちに関する演劇教室「あらしのよるに」について>

校長：小学校だけでも保護者や地域の方々に呼びかけて演劇教室を行う予定にしている。東京から劇団を招いて影絵劇を上演することにしている。詳しい日程はまだ決まっていないが、子どもたちと保護者・地域の方々に楽しんでいただければと思っている。こちらも、委員の皆様にも参加していただければ大変ありがたい。

協議内容
委員発言内容
等

<「いのちの教育あったかエリア事業」質問紙記入>

校長：委員の皆様方の意見を地域関係者ということで、質問紙に協力していただきたい。保護者は、2年生と5年生の保護者をお願いしている。委員の皆様から見える範囲の子どもの姿や教育活動で構わないので記入してほしい。同じ質問紙を1月頃にまたお願いし、その変化を比較するためのデータとして使わせてほしい。

全委員：質問紙記入

<意見交換>

F委員：命の大切さについてだが、学校で動植物の世話、動物を飼うなどの体験はどのくらいあるか。

校長：植物は、美里農園や玄関前の一人一鉢の花植えなどでお世話する機会はある。特に農園については、地域の方に植え方や育て方を教えてもらっている。しかし、子どもたちがしっかりお世話をする十分な時間はなく、先生たちや学校支援ボランティアの人たちが枯れないように、水をやりたり草をとったりしている。本当は、自分がお世話しなければ枯れてしまうことも経験させる方がいいかもしれないが、しっかり育ていくように手伝ってしまっている。また、動物は学校ではほとんどいない。校庭にいる虫や鳥には興味はある。校内では金魚を育てるくらいかもしれない。たまにカブトムシを家から持ってくる子どももいるが、買ってきたものらしい。昔のように、飼育小屋があって、そこでウサギなどの動物を飼うことはなくなってしまった。

C委員：テレビでは、小動物を飼うこともいいが、自然に返した方が動物のためでもあるということもやっていた。

教頭：6月に行った3・4年生のいのちの出前授業では、動物管理センターが連れてきた犬に、初めて犬に触ったという子どももいた。

D委員：生き物を飼うと育てる責任が出てくる。カブトムシなどは昔は自宅まで飛んできていた。今はいなくなった。山にいるかもしれないが、子どもだけでは採りにいけなくなっている。

B委員：昔は果樹の樹液にカブトムシが集まっていたものだ。でも今は、樹液が出ていても虫は集まって来なくなっている。

D委員：かつて鶴木小が今と違う場所に建っていたが、木に虫がたくさんいた。

B委員：虫も子どもだけで採れなくなった。保護者と一緒でなければならなくなっている。

G委員：同じ虫でもトンボは近くでたくさん見かけることができる。

教頭：魚釣りをしたことのある子どもも少ない。

A委員：子どもの興味は変わった。昔と同じだと今もやっているはずだ。子どもを取り巻く環境が全く変わってしまった。大人も変わっているはずだ。

今、全国で一つでも事件があるとその対応で、世の中が動いてしまっている。そしてそれが身近な事件になってしまっている。規則や法律とかで子どもを守るためにがんじがらめになって、生活に余裕がなくなっている。子どもたちが、大人の環境に慣らされすぎている。

D委員：昔との一番の違いは、環境の違いだと思う。昔は、テレビな

協議内容
委員発言内容
等

どがなかったなので、遊ぶとなると外しかなかった。館山の後ろの堤にも、危険だけど分かっていたが行っていた。今の子どもは行かない。子どもは外で遊ばなくなった。他にやって楽しいことがいっぱいある。

教 頭：各地区で外で遊んでいる子どもの姿は見えるものか。

A 委員：隣の子どもの姿は見るけれど、外にいる子どもの姿は見かけることがない。

教 頭：バス停から家に帰るまでの小学生を見かけることはあるものか。

B 委員：たまにはあるが。

教 頭：あいさつはどうか。

C 委員：あいさつはいつもとてもよい。子どもの方から言ってくる。

A 委員：今の子どもは、生まれた時からテレビ・スマホ・パソコンに囲まれ、あるのが当たり前で育ってきている。今回の西日本の豪雨災害のように、もし何も使えない状態になったら子どもはどうなるのか。大人は、何もない状態から育ってきていて、途中からテレビ・スマホ・パソコンが入ってきたから、なくても適応できると思うが、子どもは大変だと思う。どういう気持ちになるだろう。

H 委員：私の子どもには、スマホやゲームなどを与えないようにしている。幼稚園のとき、東日本大震災を経験し、数日ロウソクの火で生活した経験もあったが、それほど心配するような行動はなかった。

教 頭：学校のトイレを自分で流していない子どももいる。たぶん、自動で流れるトイレを使用しているためだと思う。

A 委員：子どもにとってはそれが当たり前なのかも知れない。生まれたときからそういう環境にある。これからは、子どもが育ってきた環境を一人一人把握しておかないといけないと思う。

C 委員：トイレの手洗いも、蛇口があるのに水が出ないという子どももいた。蛇口を回さないと水が出ないのに、手を下に入れると必ず水が出ると思っている。

A 委員：便利な生活が子どもを変えている。文明のない生活も経験させてみたい。

C 委員：リーダー講習会に行くと子どもに大きな差が出る。いろいろ体験させるべきだ。みんなでいると夜うるさくて眠られないという子どもも少なくない。

G 委員：今回の5年生の宿泊体験学習もごはんは飯ごうで炊いていないと聞いている。

校 長：大人が何でも子どもたちが活動しやすいようにしてしまっている現状があるので、子どものためになっているかどうかは、今後考えていかなければならない。